

●メンバー（7名）（敬称略）

- ・大阪女学院大学 橋本 誠一（学長室）
- ・熊本学園大学 河津 圭（情報教育支援課）
- ・札幌学院大学 長谷川 友則（教務部教務課）
- ・西南学院大学 井上 万里子（国際センター事務室）
- ・東京都市大学 山中 慎一（学生支援グループ学生支援課）
- ・富士通株式会社 沢津橋 政人（文教ソリューション事業本部）
- ・立正大学 小林 良祐（学事・学生部大崎学事課）

●検討テーマ

「ポートフォリオ」や「学生カルテ」など学生情報を活用するための ICT マネジメント

●検討要旨

事前課題である「ニーズカード」を基に、自大学での現状報告及びカードの内容説明を行った。現状として、学生カルテ（資格課程履修に特化したものも含む）を実運用している大学、紙運用の大学等の事例があった。

ポートフォリオについては、紙ベースでの運用を開始した大学はあったが、WEB システムの導入をしているケースはなかった。

ニーズカードをもとに、以下の大項目〔Ⅰ〕～〔Ⅲ〕を第 1 グループの『目的』として設定し、各項目において検討を行った。

## **〔Ⅰ〕自らが目標を設定することにより学生の自立的学習を促す**

### **1. 学生自らが目標を設定する**

【実現案】①入学前教育の充実

- －E-Learning（授業風景）
  - －自己発見レポート、EQ の事前実施
- ②オリエンテーション実施のための企画起案を行う
- －目標設定カードを事前に配布

<具体例>

- ・入学前教育として E-learning を用い、大学での授業展開への「とりかかり」「接続」の理解を促進する。
- ・4年間の学びに対する目標を立て、モチベーションを意識付けするために、「4年間の目標宣誓」を行う。  
新入生オリエンテーションにて、建学の精神に基づいた「大学生」としてのモチベーションを活性化させる講義等を実施し、「4年間の目標宣誓」に基づき自己啓発を促す。  
講義等の例として、自己発見レポート・EQ（Emotional Intelligence Quotient：情動指数）等を実施しキャリア形成の意識付けを行う

★「4年間の目標宣誓」を WEB スペース（ポートフォリオ）への提出により、「大学生のスタート」とする。

【組織体制】教務・学生生活・キャリアの総合オリエンテーション

【要因人材】ファシリテーター資質養成のための人材育成

【設備経費】オリエンテーション経費等

## 2. 履修・成績の自己管理の実現

- 【実現案】①履修登録のミス無くす為に、WEB履修登録画面において、卒業（進級）見込判定の結果を確認できる仕組みを設け、履修漏れのない仕組みを構築する。
- ②学生の履修成績・GPA・卒業（進級）見込判定結果等を、ポータルサイトやポートフォリオにて公開し、常に自らの履修成績が閲覧可能な状態にする。
- ③各講義単位での成績評価基準をシラバスにて明確にする。
- ④各講義における、出席情報やレポートへのコメント等をポートフォリオにて公開（講義単位での中間レビュー）し、自己の学修状況を管理させる。
- ⑤中間レビューに対する教員⇄学生、双方向のコミュニケーションを可能にする仕組みを構築する。

### <具体例>

- ・1年次より常に自らの履修成績等を閲覧することを意識付けさせることで、**卒業（進級）年次生が、年次履修制限により履修登録後でも単位未充足となることを、事前に通知し呼出すことで履修登録の際の手数を分散させる。**
  - ・履修講義科目中間（5回？8回？）のタイミングにて、教員からの中間発表およびその時点での「評価（最終成績ではなく中間成績や、学修状況）」を学生に開示する。
  - ・中間レビューの結果を学生間（クラス・ゼミ内など）にて共有することを1年次オリエンテーションから継続的に指導する。
  - ・中間レビューに対し学生が講義内容理解に関する自らの考えや、評価への意見等を明示できる、相互のやり取りを可能とする。
  - ・中間レビューにより、「履修中止（削除）」を考える上での材料のひとつとする。
  - ・中間レビューを実施するためには、シラバスに中間レビュー評価に関する内容を加える。また、学生自身が出席管理状況を常に閲覧できる仕組みを構築する。
- ★学生が中間レビュー結果を基に、**残回数**の講義に対する**取り組み、内容の理解（復習）**の材料を提供する。

### 【組織体制】

- ・教員と教務職員の担当者を選任する。（プロジェクトチーム）
- ・初期はモデルケース担当教員を選出。大規模講義より、少人数講義からスタートする。教員にはモデルケースを依頼することから順次拡大していく。

### 【要因人材】

- ・初期はモデルケースに該当する教員（当初は密なやり取りのあるゼミや講義から実施）。教務担当職員。

### 【設備経費】

- ・学生情報・履修登録・成績・進級卒業判定・出席・LMS（ラーニングメディアシステム）の仕組みの連携のための仕組みまたはそれに係わる費用。

## 3. 学びの実現案での向上

- 【実現案】①就職活動の成功例また、特定のキャリアパスを实践した先輩の履修履歴・活動履歴を公表する。
- ②学生生活の目標、またそのための実践活動を記録し、「振り返り」のためのシステムを構築する。

### <具体例>

- ・「4年間の目標宣誓」からスタートする自身の活動実践に対して、気づき、反省、計画（勉学のみには特化しない学生生活の記録）を継続的に蓄積し、自身の強み弱みを認識することで、次の行動に生かす。
- ・毎年積み重ねを行い、記録のレビュー⇄教職員指導のやり取りを蓄積し、就職活動の際の強みにする。

★学生の活動（課外活動やボランティア等）の記録に対し、教職員から指導やコメントを積み重ねることによって、「次のステップへの導き」を行うシステムを提供する。

#### 【組織体制】

- ・教職員の目的の共有と、役割分担を確立し、WT を結成する（組織化）。主担当担任教員（ゼミ・研究室担当等ケースバイケース）および、副担当職員を組合せ、担任配置（教員＋職員のクラス担任 WT 制度）。
- ・WT で初期アドバイスから、コメントまでの方法および基準設定・確立。
- ・担当制における担当閲覧権限および、規定の確立。

#### 【要因人材】

- ・教職員のアドバイザーとしての資質能力獲得のための人材養成。
- ・アドバイザーWT の成果報告および相互グループでの問題点共有と解決策を検討する WG の組織化。

#### 【設備経費】

- ・学生情報・履修登録・成績・進級卒業判定・出席・LMS（ラーニングメディアシステム）の仕組みの連携

## 【II】教職員保護者間で情報共有することにより、学生支援体制を構築する

### 1. 教職員間の情報共有

【実現案】①成績、学費、学生相談、出席、学籍、履修の情報に対して基準を設け、秀でた面に関する基準また危険水準を定め、各基準に対する対応する仕組みを構築する。併せて、各項目に対する対応記録も蓄積するシステムを導入する。

#### <具体例>

- ・講義毎の出欠（特に連続した欠席）把握し、大学へ来ない学生また、休学退学を未然に防ぐため教職員側へアラートを出すことで、要チェック者の事前把握を行う。
- ・成績や課外活動、ボランティア等、基準をクリアしている場合の奨学金、表彰等に反映させる仕組みを作る。
- ・未履修（履修に関して作成した基準以下）の学生に対して、「未履修」の通知を出す。職員、担任教員へも未履修のアラートを出し、教職共同で履修指導を行う。履修や進級卒業見込等デリケートな部分については、職員側で必ず履修成績を確認し、「学生呼出」を承認することで、学生への通知、保証人への通知を可能にする。

★教職員が把握することにより、それぞれの視点からの指導を実現する。また、アラートを職員側に出すことで把握としての、効率化を図る。

【組織体制】 対応部署・基準・対応内容を定める。教員と職員間の役割の相互理解。

【要因人材】 アドバイザー資質能力養成の為の人材養成と組織化。

【設備経費】 アラートシステムの構築にかかわる経費（職員側での承認機能がマスト）

### 2. 保証人との情報共有

【実現案】①保証人用ポータルサイトを構築する。大学の教育方針を保護者に説明し、同意の上、閲覧権限を与え、教育支援体制に参画してもらう。

#### <具体例>

- ・現状、各大学において成績・履修状況を保証人に通知する仕組みがある（紙ベースが多い）。紙での通知は「証拠として通知」をしているものを止めることは難しいという考えもある。説明責任があるため、紙での通知は必要と考えられる。また紙の発送と WEB 通知を行い、両者に錯誤が無いことで二重の確認が

可能となる。

- ・保証人用ポータルサイトを構築する。入学時に、保証人宛に成績（履修）通知を行う旨、また保証人宛ポータルサイトにて各種父兄会、公開講座等各種案内、HPよりも更に細かな情報公表について通知する。
- ・通知文には、本学の教育理念の理解、および伴う教育体制への参画依頼をする。ID・PASS付の案内文とし、ログインできる環境を与える。
- ・ログインし、「履修成績通知メニュー」の閲覧画面へ進む際、年度初回閲覧時には「教育理念への理解と本学の教育協力に関するお願い・個人情報に関するお願い」等を、提示する。『同意します』にチェックを付け次へ進み、保証人宛成績通知を閲覧可能とする。
- ・『同意します』のチェック状況を、大学にて把握し保証人の対応状況等を確認する。把握した情報を基に成績不良学生、出席不足等の指導に役立てる。また保証人のチェック状況を確認することで指導協力をしてもらっているかの確認にもつながる。

**★学内外から学生を育てるため、保証人にもより大学を理解してもらい、かつ教育者の一員として協力を要請する。**

#### 【組織体制】

- ・個人情報保護委員会から、学生への事前通知。またその上で、通知拒否対応組織を教職員で組織する。

#### 【要因人材】

- ・学習支援者としての大学教育を担ってもらう保護者の理解。
- ・学内個人情報保護委員会・クラス担当教員・父兄会・教務担当職員・情報担当職員

#### 【設備経費】

- ・成績通知郵送代費用・保証人用ポータルサイトの構築に係わる費用

### **〔Ⅲ〕大学の教育への取組みを理解してもらう**

1. 入学に際して、教育内容に関する大学と入学者間のギャップを無くす。
2. 企業が期待する能力を持つ学生を輩出していることを証明する。

【実現案】①大学側の、学生の学習支援の状況を公表（フローチャート、組織図、写真、動画）する。

②動画サイトで、授業風景（オープンコースウェア、白熱教室的な感じ）を公開する。

③取組みの成果（出席率の向上、退学率の低下、資格取得状況等）を、統計的に公表する。

④ポートフォリオを学生本人が就職活動等の面接等に持参、アピール材料にするとするためのシステムの構築。

#### 【組織体制】

- ・教育研究課、キャリアサポート（就職）課、広報担当課との連携。
- ・学生課外活動団体を利用し、学生活動の一環とする。

#### 【要因人材】

- ・外部リソース・職員統計分析能力の育成・課外活動団体運営担当課

#### 【設備経費】

- ・外部リソース・学生協力アルバイト費用等

#### ●まとめ（最後に）

第1グループの検討における最終的な学生を育てるイメージを共有するため、イメージ化を行った。

学生が大学へ入学する際、目標を明確にすること。またその目標が、4年間のスタートにおける大きな一歩で

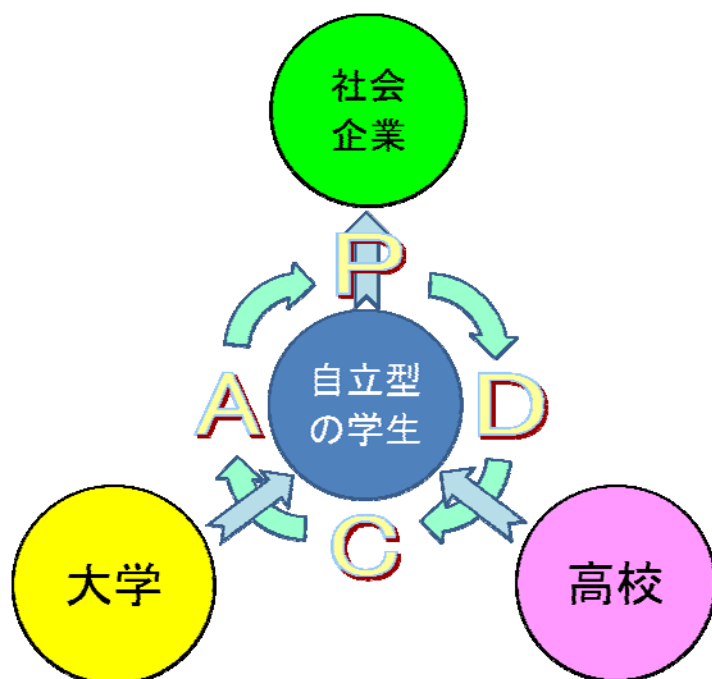
あると考える。目標を設定するためのツールとして、入学前のオンデマンド講義の充実、自己発見のための機会を充実させる仕組みを構築する。

大学が入学後の学生を支援するためのツールとして、学生カルテを有効活用したり、ポートフォリオにおいて、

導入教育時点からの積み重ねを可能とするシステムを提供する。

これらを踏まえ、大学が社会へ輩出する人間像を「建学の精神」に基づき保証人の理解を得ることも学生教育の充実のためには欠かすことのできない要素である。保証人の協力を得るための「ポータルサイト」の構築も有効な手段であり、様々な情報発信が可能となる。

学生キャリア形成の集大成を企業社会へのアピールできる材料として、授業風景の公表、取り組みの公表、またポートフォリオにてでき上がった「学生の蓄積」を企業に提出・提示できるものとして纏め上げるための仕組みを構築する。これらに ICT ツールとして有効活用することが重要であると考えられる。



図：学生を育てる ICT 活用のためのイメージ

以上